

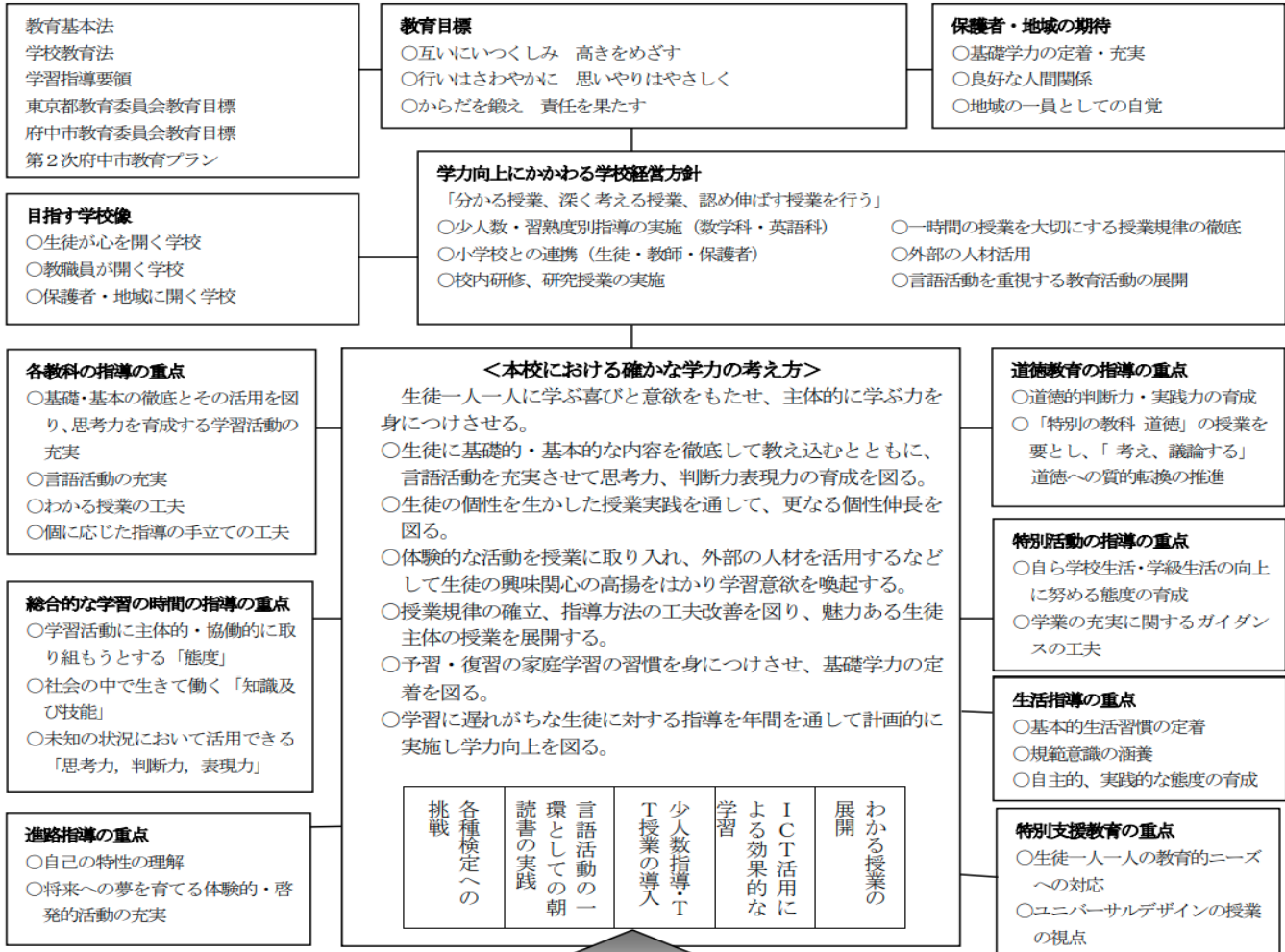
令和4年度 授業改善推進プラン

府中市立浅間中学校

令和4年9月作成

令和4年度 授業改善推進プラン全体計画

府中市立浅間中学校



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	学習評価の工夫	家庭・地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○全教科で言語活動を導入した授業展開を工夫する。 ○個に応じた指導を充実させる。 ○数学・英語で少人数習熟度別授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜日に授業を行い授業時数を確保する。 ○朝読書を実施する。 ○基礎補充教室、考査前や長期休業日の学習教室等を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間3回の研究授業を実施し、教科指導力の向上を目指した研修を充実させる。 ○計画的に研修を実施し若手教員のOJTを実施する。 ○授業改善推進拠点校として授業と評価の一体化による授業改善を組織的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別評価を適切に実施し指導の改善に生かす。 ○学校評価、授業評価アンケート、学力調査等を分析し指導に反映させる。 ○生徒や保護者に対して学習評価に関する情報を積極的に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宿題等の課題を与え、家庭と連携し学習習慣を確立する。 ○学校行事やボランティア活動、授業公開を通じて小学校、地域と広く連携する。 ○たより、HP等により広報活動を充実させる。
授業改善の方策（各教科の共通理解として） <ul style="list-style-type: none"> ○授業者は教室において始業のチャイムを聞く。（授業の終わりもチャイムとともに） ○導入5分の工夫をする。（<u>学習の目標・ねらいを明示</u>し、興味・関心を引き出す） ○発問の工夫をし、学習の深まりをつくり出す。 ○生徒一人一人の表情を見取り指導する（分かった、分からない、退屈した、考えている等それぞれの表情） ○ICTの活用方法について研究する。（教材提示に効果的か、生徒の興味・関心が高まるか） ○思考力・判断力を育成するために、生徒主体の対話的な学習活動を取り入れ、深い学びに結びつける。 ○授業の終わりには、その時間に行った<u>授業のまとめや確認</u>をする。 				

教科名(国語)

○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>○「授業のねらい」について初めに確認し、最後に学習内容の振り返りを行うことで授業の定着を図るパターンで授業を組み立てている。1学期間でだいぶ生徒に浸透してきている。</p> <p>○課題に対する取り組み、提出物についてはおおむね良好である。</p> <p>○生徒の授業評価アンケートによると授業の理解度は91.5%の生徒がどちらかというよく分かるという評価なのでおおむね理解されていると考えられる。</p> <p>○市の調査では全体平均点より3.6点高く、基礎的な力はおおむね身に付けている生徒が多いと考えられる。</p> <p>○初めての定期考査の平均点が59点であった。</p> <p>●市の調査では主語を選択する問題に少々課題がみられる。</p> <p>□単元の終わりに実施する振り返りシートへの記入が定着しつつある。</p>	<p>・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。</p> <p>・ねらいを明確にし、今後もポイントをしぼって指導していく。</p> <p>・述語から主語を導き出す過程を丁寧に指導していく。</p>	<p>・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、1時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。</p> <p>・未提出の生徒に対しては、今後も声かけ、放課後の補助学習によって支援を続けていく。</p> <p>・丁寧かつ目的を明確にした授業を心がける。</p> <p>・定期考査の結果を分析すると、記述形式の問題に課題がみられるので適切な文章表記や答え方の指導を図る。</p> <p>・プリントの課題に対して粘り強く取り組めるような発問を工夫していく。</p> <p>・「主体的に学びに向かう力」を見取るために、適切なルーブリックの作成を図る。</p>
2年	<p>○授業のねらいを定め、提示してから授業を行う流れは定着している。見通しを持ち、学習に取り組めているように感じられる。</p> <p>○授業内容に対する理解と意欲は8割から9割の生徒が持っている。</p> <p>○定期考査に対する取り組み方が定着し学習に取り組む姿勢が見られる。</p> <p>□月毎に行う漢字テストは習熟度で行い、個々が目標を定め取り組んでいる。</p> <p>●作文に対し、苦手意識を持つ生徒が多い。</p> <p>■苦手なものに対し、とっかかりを持たせる必要がある。</p>	<p>・作文は定期的に授業に取り組み、繰り返して行う。</p> <p>・各々の力に合わせて伸ばしていける指導が必要である。</p>	<p>・定期考査で200字作文を出題するとともに、事前に練習問題に取り組ませる。書き方のコツ、読み取り方のコツ、起承転結の捉え方は繰り返しながら力をつけさせていく。</p> <p>・一人ひとり添削、推敲する中で個々に合わせた指導をしていく。</p>
3年	<p>○授業の初めにねらいを提示し、授業の最後に振り返りを行う流れは定着している。学習の見通しを持ち、取り組めているように感じられる。</p> <p>○課題に対する取り組み、提出物についてはおおむね良好である。</p> <p>○定期考査に対する取り組み方が定着し学習に取り組む姿勢が見られる。</p> <p>○生徒の授業評価アンケートによると授業の理解度は98.9%の生徒が「よくわかる」「どちらかというよく分かる」という評価なのでおおむね理解されていると考えられる。</p> <p>●作文を書くことに対し、苦手意識を持つ生徒がいる。</p> <p>□単元の終わりに実施する振り返りの記入が定着しつつある。</p>	<p>・文章を丁寧に読み取っていく。語句の意味調べを丁寧にやる。</p> <p>・作文の書き方の指導を定期的に行う。</p>	<p>・授業のねらいのはっきりと示し、授業内容と流れの提示をする。反復学習による知識の定着化を図り、1時間の授業で何を学び、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。</p> <p>・課題が未提出の生徒に対しては声掛けによって支援を続けていく。</p> <p>・丁寧かつ目的を明確にした授業を心がける。</p> <p>・授業時やプリントの発問を工夫し、生徒の学びを深める。</p> <p>・一人一台のタブレットのドキュメント機能を効果的に活用し、添削や推敲に取り組むことで、思考力・表現力の育成を図れる授業づくりを行う。</p> <p>・「主体的に学びに向かう力」を見取るために、生徒が学習目標の設定や自己の達成度の把握ができるような適切なルーブリックの提示を図る。</p>

教科名(社会) ○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>■授業評価アンケートの「あなたは、積極的に授業に取り組んでいますか」という項目で88.4%肯定的な回答だったが、否定的な回答の11.6%の生徒たちが意欲的に取り組みたいような教材づくりや導入の方法を考える必要がある。</p> <p>●授業評価アンケートの「あなたは、授業内容がよく分かりますか」という項目で17%の生徒が否定的な回答をしている。生徒の理解を進めるために授業の内容について見直す必要がある。</p> <p>□1学期は、Googleのスライドとワークシートを作成させて生徒が班ごとで授業を行う活動やGoogleのjamboardを活用して時代の比較や学習内容の整理を行った。ICT機器を用いることで生徒の主体性が増した。</p> <p>■話し合いや考えを深める活動が4人グループのみになっているため、ペア学習や発表の形態など生徒の主体性が増すさまざまな方法を考えていく。</p>	<p>・授業内容の充実</p> <p>・知識定着のための教材研究</p> <p>・生徒用タブレットの活用の充実</p> <p>・班での探求学習の研究</p>	<p>・アンケートを通して主体的に学習に取り組む態度が低いので、生徒にとって身近な話題を授業内容に利用する等、改善を行い生徒の興味関心を引き、主体的に学習に取り組めるようにしていく。</p> <p>・知識を活用した探求的な学習につなげられるように、単元の最初のタイミングで使う知識を集約したスライドを作成し、知識の定着を促す。昼休みや放課後に質問教室を開き、授業内容の定着を促す。</p> <p>・ICT機器を活用して、生徒がより深い学びができるように授業作りをする。また、ICT機器の有効な活用について校内研修等を利用して情報交換をする。</p> <p>・校内研修や府教研で学ぶ機会を大切にし、班での探究活動のさまざまな方法を試し、授業内容に応じて最適なものを選べるようにする。</p>
2年	<p>●授業評価アンケートの「あなたは、授業内容がよく分かりますか」という項目で24%の生徒が否定的な解答をしている。昨年度は、13%であったのに対して、割合が増えており、授業内容について早急に改善を図る必要がある。</p> <p>□1学期は、ICT機器を工夫して活用したり、生徒の授業時間内の調べ学習への取り組み方の希望調査を取り、その調査結果を参考にして班編成を行い、より主体的に学習に取り組む活動を取り入れ生徒の意欲を高めた。</p> <p>■定期考査の結果を見ると、「思考・判断・表現」の正答率が50%を下回っている。その点から、「思考力の育成」に関する指導が不十分であることが分かる。</p>	<p>・生徒が分かる授業を行う</p> <p>・振り返りの充実</p> <p>・指導と評価の一体化</p> <p>・授業内容の改善</p> <p>・生徒の興味関心の醸成</p>	<p>・生徒の理解度が低いので、生徒が分かる授業を作っていく。その為には、生徒が分かる問いの設定、教師による振り返りを丁寧に行う。</p> <p>・主体的に学習に取り組む授業形態は整ってきたが、それを適切に評価し、生徒に還元したり、自分の指導に活かしたりすることが不十分である。その為、適切に評価を行えるよう、教師道場での研修や校内研修に取り組む。</p> <p>・日頃の授業内で生徒の思考力を育成する為に、ワークシートを工夫していく。また、ワークシートの内容に対する評価を行い、返却する際に振り返りを丁寧に行えるように指導する。また、「思考力」を育成する為には、なぜだろうと生徒が思うことが大切だと考えており、更に発問を工夫して授業内容の深化を図り、改善していく。</p>
3年	<p>○1学期末考査や授業アンケートの結果を見ても、概ね分かりやすい授業ができたと手ごたえを感じている。授業の内容が「よく分かる」が78%で、「どちらかというと分かる」を加えると97%を超えていた。分かりやすい特にプレゼンテーションソフトを毎回活用し、視覚的に分かりやすく興味を引く工夫をしたことや、生徒タブレットパソコンを積極的に活用し、分からないことはその場で調べられるようにしたことの効果が高かった。</p> <p>●残り5名がどちらかというと分からないと感じていることを重く受け止めたい。机間指導や生徒同士の学び合いの工夫をもっとしていきたい。</p> <p>□グループ内での学び合い活動や発表を毎時間入れることができ、それが知識・技能の習得だけではなく、思考力の育成や「主体的に学びに向かう力」の育成につながったと感じている。昨年度よりも改善した振り返りシートも適切な評価材料になったと思われる。</p> <p>■「主体的に学びに向かう力」を育成する方法の改善を継続する必要がある。</p>	<p>・生徒用タブレットのさらなる有効活用</p> <p>・学び合い活動の拡充、適切な支援</p> <p>・学び合い活動の継続</p> <p>・適切な評価の研究</p>	<p>・現在取り組んでいる学び合い活動や発表はこれまで以上に力を入れて取り組んでいく。また、質問教室や補充教室も継続する。主体的に学びに向かう力を育成するためにスライドの共同編集機能を活用し、課題に取り組む等、タブレットパソコンを有効活用し、生徒が自ら学びたいようなしかけづくりを行う。</p> <p>・振り返りシートのように少しずつ形になっているものもあるが、まだ、効果的な方法への改善が必要だと考えている。授業改善推進拠点校の取り組みに積極的に取り組み、ルーブリックを活用した評価方法の改善に更に取り組む。</p>

教科名(数学) ○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>○定期考査の結果から、知識技能の観点に関して86%の生徒がAもしくはBの評価であった。このことから1学期に学んだ正の数・負の数に関して、ほとんどの生徒が計算について理解しており、全体的に基礎・基本が定着していると考えられる。</p> <p>●府中市学力調査や定期考査の結果から、一部、基礎基本が十分に身につけていない生徒がいる。</p> <p>□一人でじっくり考えた後、周りの生徒と積極的に意見交換したり、考えたことを積極的に発言する生徒が多く、主体的に学習に取り組む生徒が多い。このことは授業アンケートにおいて、91.4%の生徒が数学の授業に積極的に取り組んでいる、どちらかといえば取り組んでいると回答していることから伺える。</p> <p>■課題解決的な学習による思考力の向上を図るため、単元ごとにレポート作成(単元で学んだことをふまえて自分で課題を設定し、まとめる)を行っている。A評価を取れている生徒が少なく、学んだ知識技能の活用に課題がある。</p>	<p>基礎・基本の確実な定着</p> <p>知識・技能の活用</p>	<p>・問題集の提出はまとめてではなく、こまめに定期的に確認し、生徒の理解度を随時確認する。そして、理解が充分ではない生徒に対しては、放課後等に教員が支援しながら問題集に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図る。また、夏休みを活用して基礎・基本の定着を目標とした補習教室を実施し、生徒へのフォローを行っていく。</p> <p>・評価の基準(ルーブリック)を明示しレポートは、どのように書いていけばよいかを具体的に生徒に示しながら、繰り返し取り組むことを、年間を通して計画的に行っていく。また、A評価を取れているレポートに関しては全体で掲示したり、教員から内容を説明したりし、全体で共有することでレベルアップを図る。</p>
2年	<p>○3展開(基礎・標準・発展)の習熟度別少人数授業を行ったことにより、個に適した授業内容を展開することができた。このことは、79.9%の生徒が習熟度別授業を肯定的にとらえていることからわかる。また、知識・技能の観点に関しては80.6%の生徒がAまたはB評価となり、結果として基礎・基本の定着にも結びついているといえる。</p> <p>●定期考査を見ても、昨年に比べて、思考・判断・表現の問題にあきらめず取り組もうとしている生徒が増加しているように感じるが、平均正答率は42.7%である。学習したことを活用する場面においては、まだ課題がある。</p> <p>□授業評価アンケートにおいて、89.7%の生徒が積極的に取り組んでいる、どちらかという積極的に取り組んでいると解答している通り、授業に前向きに取り組んでいる生徒が多い。また、周りの生徒と相談したり教え合ったりすることも、とても活発に行うことができる。</p> <p>■レポート課題では、多くの生徒がB評価にはなってきたものの、A評価をとれる生徒の人数が少ない。これまで学んだことを生活や学習に自ら積極的に生かすことが出来ない生徒がまだ多く、支援が必要である。</p>	<p>・課題の把握と理解を促し、思考力の育成を図る授業づくり</p> <p>・主体的に学びに向かう力の育成</p>	<p>・「何が求められているのか」、「何を考えなくてはならないのか」、「何を使って解くことができるか」等、課題を解決するための考え方が学習できるような探究活動を取り込んだ盛り込んだ授業を、習熟度に合わせて展開する。また、「似ている問題」を意識しながら課題に取り組む習慣が身につくように家庭学習の充実を含めて働きかける。</p> <p>・評価の基準(ルーブリック)を明示するとともに、A評価のレポートを掲示し、生徒に示すことで、どのような視点をもつことが大切であるのかを明らかにする。また、年間を通して、定期的にレポート課題に取り組ませることを通して、よりよいレポート作成ができる力をつけさせるように働きかける。</p>
3年	<p>○少人数授業による3分割(基礎・標準・発展)により習熟度に適した授業内容を展開したことで、全体的に基礎基本の定着が見られ、定期考査の知識・技能の観点に関しては83%の生徒がAまたはB評価であった。</p> <p>●習熟度のクラス分けの基準付近点前後の生徒が授業のペースについていけない場合がある。個別指導等の別な支援が必要である。</p> <p>□自分の考えを積極的に発言する生徒が多く、3年生になってノートに考え方を記入する生徒が大半となった。また、発言についても理由や根拠も示せるようになり、昨年に比べて、前向きに取り組む姿勢が見られるようになった。</p> <p>■自分の考えを論理的に説明したり、数学的な表現を苦手とする生徒が多い。用語や手順を正しく理解させ、それらを正しく使えるようにしながら、思考力の向上を図ることが必要である。</p>	<p>・習熟度別でも段階に分け、それに応じた目標と課題の設定を行う。</p> <p>・考え方を記述させ、発表させる活動を継続していく。</p>	<p>・習熟度別のコースの中にみられる習熟度理解度や作業の進行具合の差を常に気につけ、いくつかの段階に分けた目標の設定、問題の選定をしていく。また、授業だけで足りない部分を、休み時間や放課後等に、個別に支援できる機会を設ける。</p> <p>・説明として不足の部分や誤りの部分が十分な表現になるように、生徒同士の意見交換や教員によるワークシートへの助言の記入を行う。</p>

教科名(理科)

○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>①定期考査の結果と授業の様子から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別の得点率は知識・技能が64%、思考・表現が54%となった。 ○基礎知識や用語の問題は正答率が高い。 ●知識を関連させて説明する問題や計算式の応用などの問題の正答率がやや低い。 <p>②授業評価アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・91%の生徒が「積極的に授業に取り組んでいる」か「どちらかという積極的に取り組んでいる」と述べている。 ・93%の生徒が、「よく分かる」か「どちらかという分かる」と述べている。 □発問で必ず「何故」という問いを出し、考える時間をとることで、考えようとする姿勢がみられるようになった。 ■個々で考える時間はとれたが、班で話し合うなど、違う考えに触れて、自己の考えを修正していく時間は不十分であった。 	<p>① 学習内容の定着を図り、それをもとに推論を行い、主体的に学習に取り組む態度の育成をさらに進める。</p> <p>② 生徒が興味をもつ課題解決の設問(明確な回答がないもの)と時間の確保を行う。</p>	<p>① 学習課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員が、どのような学習内容に取り組むかを明確化するため、適切な発問やワークシートを更に工夫する。 ・思考力・表現力の育成を図るため、課題解決学習の授業展開(予想・実験・考察・まとめ発表)を中心に、生徒同士の意見交換を取り入れて実施する。 <p>② 生徒が興味をもつ題材の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題やエネルギー問題など生徒がニュースなどで触れる機会が多いものと関連できるような題材を設定する。
2年	<p>○学習の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や実験に前向きに取り組む生徒が多い。授業評価アンケートの「あなたは、積極的に授業に取り組んでいますか」という項目で93.3%が肯定的な意見を述べている。 ・授業内容については91.8%が「よく分かる」か「どちらかという分かる」と述べており、定期考査の点数でも同様に高い結果となっている。 <p>●学習の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を含む日々の学習が不十分な生徒がいる。学習する生徒としない生徒の二極化が進んでいる。 <p>□指導に関する成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章ごとに振り返りを行い、課題や疑問に対して学習前後での考えの変容をメタ認知させることができた。 ・経験や既習内容をもとに予想を考え、それをもとに実験および考察を行い、思考力を育成することができた。 <p>■指導に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習で分かったことが、日常生活やこれからの学習にどのように活用できるか考えられている生徒が少ない。 	<p>・基礎基本の定着を図る学習活動の充実</p> <p>・探求学習を行う時間の確保・グループワークの充実</p>	<p>・授業内容の定着のために、毎時間の最後にまとめプリントでの問題演習を行う。また、章の最後には小テストを行い、復習の習慣化を図る。</p> <p>・反転学習を行う。事前に予習することで、家庭学習の習慣化を図るとともに、予習で確保できた時間でグループワークや探究活動を行い、思考力の育成を図る。</p> <p>・学習内容と日常生活を結びつけられるようにするために、時事問題を取り上げるなどして発問や課題を工夫する。</p>
3年	<p>○ 学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・96.2%の生徒が「積極的に授業に取り組んでいる」、「どちらかという取り組んでいる」と回答しており、授業に前向きに取り組んでいる生徒が多い。(授業アンケート結果) ・92.9%の生徒が「よく分かる」、「どちらかという分かる」と回答しており、各授業について「分かった」と感じている生徒が多い。(授業アンケート結果) <p>● 学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別の得点率は知識・技能が74%、思考・判断・表現が42%となった。(定期考査の結果) <p>□ 言語活動に関する成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えや答えを他者に伝える場面として、実験考察、ペアワーク、グループワークなどの活動を実施した。 <p>■ 思考力の育成に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団の言語活動のみだった。結果や調べた内容を全体に発表するような機会を増やす。 ・正しい語句、表現方法を使い言語活動を行うように指導する。 	<p>● 学習課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能、思考・判断・表現の能力向上 <p>■ 思考力の育成に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を行う時間の確保 ・基礎用語の定着 	<p>● 学習課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能は繰り返し授業内で内容確認や確認テストを行うことで定着を図る。また、定着した知識・技能を正しく活用し問題に取り組む場面(ワークシートや授業展開)を設定し、思考・判断・表現する力の向上を目指す。 <p>■ 思考力の育成に関する課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型の学習スタイルに話し合いや教え合いの場面を設定し、相手に正しく考えを伝えたり、理解して意見を聞くことで、更に思考力の育成を図る。 ・ワークシートに言語活動の評価欄を加え、相手を意識した発表をさせる。

教科名(英語) ○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>生徒による授業評価アンケートによると、</p> <p>○「授業の内容がよくわかる」という項目において、94.5%の生徒が分かると回答し、「積極的に授業に取り組んでいる」という項目では、95.2%が「取り組んでいる」と回答した。</p> <p>●授業の終わりにその時間に行った授業のまとめや確認をしている」という項目において、「確認していない」という回答が16.5%いた。</p> <p>1学期の評価評定を見ると、</p> <p>■各観点別の達成率の平均は「知識・理解」では80.5%あるが、「思考・判断・表現」では70.8%、「主体的に取り組む態度」においては65.8%だった。</p>	<p>●授業計画を見直し、その時間の振り返りを設定する。</p> <p>■生徒の思考力を伸ばす、あるいは主体的に学びに向かう力を育成する。</p>	<p>○生徒の興味関心に寄り添い、分かりやすい教材作りを継続する。</p> <p>●その時間、時間で何ができるようになったか、今一度言葉で確認する時間を授業のまとめとして設定する。</p> <p>■辞書を使った探究学習において、よい例を共有し合い、どのような視点を持ち、何を調べ、どのようにまとめるとよいかを毎回確認する。</p> <p>■生徒たちは授業内で積極的に学んでいるが、授業外にも深めてみたくなるような課題の種類をさらに増やす。</p>
2年	<p>生徒による授業評価アンケートより、</p> <p>●授業の始めにねらいをはっきりさせていますかという質問に、30.3%がさせていないという回答だった。</p> <p>●授業の終わりにその時間に行った授業のまとめや確認をしている」という項目において、「確認していない」という回答が36.1%あった。</p> <p>□あなたは積極的に授業に取り組んでいますかという質問に対し、83.6%が肯定的な回答をしている。英語の授業で「主体的に学びに向かう力」の育成が図られていると考えられる。</p>	<p>●授業計画の見直しを行う。</p>	<p>●「本時のねらい」を、板書を工夫して、さらに生徒にわかりやすく提示する。</p> <p>●「1時間の授業のまとめ」については、文法を扱う授業だけでなく、教科書やプリントでのまとめ学習の時にも行うようにする。また、授業の終わりに、学習した内容について、人に説明する時間や自分で書いてまとめる時間を設ける。</p> <p>□言語を使って4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)を鍛える授業をこれからも展開する。</p>
3年	<p>生徒による授業評価アンケートによると、</p> <p>○「あなたは、積極的に授業に取り組んでいますか」という項目において、87.3%の生徒が肯定的に答えていた。</p> <p>●「あなたは、授業の内容がよく分かりますか」という項目において70.9%の生徒が肯定的に答えていたのに対し、11%がわからないと答えていた。</p> <p>1学期の評価評定を見ると、</p> <p>■各観点別の達成率の平均は「主体的に取り組む態度」では67%あるが、「思考・判断・表現」では66%、「知識・技能」においては62%だった。</p>	<p>●今回、新しい文法事項として、現在完了形と現在完了進行形を学んだ。その理解・定着をすすめられるよう、まとめの時間を多めに設ける。</p>	<p>○生徒が授業で積極的に取り組むだけではなく、さらに得た知識を応用して外国語での表現力を伸ばしていけるような授業作りを継続する。</p> <p>●既習事項の復習も積極的に授業に取り入れ、理解の定着をすすめていく。</p> <p>■理解した事項を応用し、積極的に英語で会話ができるよう、授業内での練習をより多く行うことで、思考力や表現力の育成だけでなく、英語力全体の向上を図る。</p>

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>○授業アンケートから、92.1%の生徒が授業のねらいを理解して取り組んでいることがわかった。ねらいの表示、確認を徹底、習慣にしたことがこのような結果となったと考えられる。</p> <p>○「授業に積極的に取り組んでいるか」の項目についても88.4%の生徒が肯定的な回答をしている。誰もがわかる授業を目指し、スモールステップを取り入れた授業が効果的であったと考えられる。</p> <p>●日頃の授業、実技テスト等から、歌唱活動において大きな声をだすことに抵抗がある生徒が多くみられる。1学期当初よりは、声を出すことに慣れた生徒が半数以上いるが、3割程度の生徒は声をだすこと、間違えを恐れ積極的に取り組めていない。</p> <p>■成績から、思考力・判断力・表現力等の項目で、Cがついた割合が25%であり、ほかの2観点と比較しても割合が高い。</p>	<p>・歌唱の基礎的な技能の育成</p> <p>・間違えを恐れずに取り組めるような環境設定、指導</p> <p>・言語能力の育成</p> <p>・生徒自ら考える発問を意識し、日頃から取り入れる</p>	<p>・歌唱の授業では、毎授業発声練習を行い、基礎的な歌唱の技能を身に付ける。また、その練習でもなぜそのような練習を行うのか、なにを意識して練習するのかを明確にし、思考力の育成、主体的な取り組みにつなげる。</p> <p>大きな声で、相手に伝わる声で表現するために、音楽の強弱記号だけではなく、数値化する。1～10の数字で自分ほどの程度意識し、歌ったのかを考え、教師からのフィードバックをすることで、生徒は出しているつもりでも、教師が目指している音量との齟齬をなくすることができるため、そのようによりわかりやすく、生徒と教師の食い違いがないようにする。</p> <p>間違えることで学ぶということを生徒に再度周知を徹底する。また、パート練習や机間指導の際によく一人ひとりの声を聴き、適宜指導することで、生徒の自信につなげる。</p> <p>・思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、「なぜ」を意識した発問を多く取り入れる。日頃の発問やねらいにもなぜを取り入れ、自分事として考えさせる。さらには、自分の言葉で表現できるよう、ワークシートを工夫する。表現・鑑賞において、根拠をもって説明することを徹底する。特に鑑賞においては、批評文の具体例の提示、フィードバックを適宜行う。</p>
2年	<p>○授業アンケートから、授業の内容理解について肯定的な回答をした生徒は、76.9%であった。さらには、よくわかると回答した生徒は28.7%となった。誰もがわかる授業を目指して取り組んでいるが、少し駆け足で授業を進めてしまったことがこのような結果になったと考えられる。</p> <p>●授業アンケートから、授業の理解度が追いついていない生徒が他学年比較2割ほど多い。1学期はオーケストラについて取り扱ったが、小テストでも理解に差が大きくあった。変声期とも重なり、音楽が苦手と感じている生徒が増加傾向にあるのではないかと。</p> <p>□オーケストラ鑑賞教室のワークシートには、9割以上の生徒が、音楽的な特徴を捉え、実感を伴って理解し、言葉に表現することができていた。しっかりと事前に学習したことや、実際に目で見て肌で感じることは、重要なことであることがわかる。</p> <p>■小テストの結果やワークシートから、音楽の基礎的な知識は定着しているが、それをどのように活用することができていない。また、それを批評文等の文章にすることが苦手な傾向にある。</p>	<p>・スモールステップを重視した授業</p> <p>・復習時間の確保</p> <p>・コミュニケーションの徹底</p> <p>・思考力・判断力・表現力等の育成</p> <p>・生徒自らが考える発問を意識した授業</p>	<p>・ねらいの確認、復習、振り返りを徹底させる。特に振り返りでは、自己評価をしっかりと行い、何ができて何ができていないのかを生徒も教師も共通認識をもつ。そして、自ら次の課題を見つけ、そのための解決方法を見出す力を伸ばすことができるように、振り返りシートでのフィードバックを丁寧に行う。</p> <p>・日頃の授業や学校生活においてコミュニケーションを積極的に取り、わからないことをわからないといえるような環境を整える。</p> <p>・歌うことや文章で表現することが苦手な生徒も音楽が少しでも楽しいと思えるよう、4領域(歌唱・器楽・創作・鑑賞)の内容をまんべんなく取り扱う。</p> <p>・部分練習、部分鑑賞などを通し、「できた」の経験を増やすことで自己肯定感を高め、音楽への意欲を高められるようにする。</p> <p>・歌唱の授業において、ただ楽譜通りに表現できるようにするだけではなく、なぜそのような強弱記号がついているのか、どうしたら表したい曲想を表現できるのか問うことで、思考力・判断力・表現力等の育成や、知識の活用を行えるような授業展開を行う。</p>
3年	<p>○授業アンケートから、授業の内容がよくわかるかという質問に対し、肯定的な回答をした割合は98.0%ほどであった。また、「よくわかる」という回答が5割程いたことから、わかる授業を実践することができていた。</p> <p>●日頃の授業から、3年生としての自覚をもち取り組んでいるクラスとそうではないクラス、生徒の差が激しい。特に、歌唱の授業では、力を出し惜みする部分が見られた。現状に満足することなく、さらに高みを目指して欲しい。</p> <p>□批評文を例に沿って書くことができていない生徒が半数以上いた。</p> <p>■定期テストでは、思考力・判断力・表現力等の平均は、5割を切った。特に記述式の問題や、知識を使って解く問題の正答率が低かった。知識があってもそれを活用することが苦手とされる。</p> <p>歌唱表現では、創意工夫の場面で、楽譜通り正しく歌うことばかりに問われ、どのように表現したいかまで考えられている生徒は少数であった。</p>	<p>・向上心が高まる授業づくり</p> <p>・知識を活用して考える活動を日頃から取り入れる。</p> <p>・根拠をもって表現する</p>	<p>・歌唱の授業においては、発声においても何のための練習であるかを認識する。</p> <p>・生徒にとって身近な題材を導入で取り扱うことで、興味関心を高める。</p> <p>・授業ごとに振り返りを行い、何ができて、何ができなかったのかを生徒も教師も共通認識を図る。さらに次の課題を自ら見つけ、そのためのより具体的な解決方法を見つけられるようにする。</p> <p>・思考力・判断力・表現力等を育成するために、日頃から「なぜ」の発問を取り入れる。なぜ作曲家はそのような表現をつけたのか考えを膨らませることや、あえて強弱記号などを消し、どのように表現したいか考えることで、書いてあることを表現する以外の思考力を育てる。</p> <p>・ワークシートなど、日頃から文章で表現する機会を増やし、文章表現に慣れる。相手に伝わる文章をかけるよう、他者に呼んでもらう活動も取り入れる。</p>

授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
<p>○生徒による授業評価の「先生は、授業の始めの部分で、その時間の授業のねらいをはっきりさせていますか」の項目では、「させている」「どちらかというさせている」を合わせると93%となり、授業の目標を一人一人が明確にして取り組ませている結果が表れた。また、「あなたは、授業の内容がよく分かりますか」の項目では、92%が肯定していることから、授業内容を分かりやすく、かみ砕いて指導をしている成果といえる。</p> <p>●授業のまとめや確認をしているかの項目では、27%の生徒が否定している。「学習シート」を活用して毎時間の振り返りを行っているが、その取扱いが今後の課題といえる。</p> <p>□授業評価の「積極的に授業に取り組んでいるか」の項目では、96%が肯定している。授業内容の指導する方向を、生徒の主体性の育成に主眼を置きながら段階を踏んだ分かりやすい指導を心がけた成果といえる。</p> <p>■授業のまとめや確認を授業内に効率よく効果的に行う方法を構築すること。</p>	<p>授業内に効率よく授業のまとめや確認を行い、自分の学びや成長を自覚させること。また、題材全体を見渡し、自分の気付きや考えの変容などを振り返りながら、次の活動の見通しを主体的にもてるようにすること。</p>	<p>・左記の点から、主体的な学びに向かう力や思考力をより高めるために工夫、改善できる点が明確になった。課題として明らかになった授業内での振り返りや確認の指導をより確実に行うことを通して、題材全体を見通して、自分の気付きや考えの内容などを振り返りながら、次の活動の見通しをもたせることで、より主体的な学びに向かう力を育成する。</p> <p>・授業内での振り返り時と、これまでの活動を振り返り、先の見通しをもたせる時間等を新たに確保する。</p> <p>・これまでの学習シートでは、生徒が無自覚に活動の様子を記録している場合が見受けられる。題材の目標や評価の視点、制作の見通しや作品の主題の変容などの自己の学びを記入する「制作計画書」を作成して、記入方法の指導を徹底させる。自らの思考を「見える化」させ制作の見通しや作品の主題をつねに再考させながら考えを深められる「制作計画書」になるように工夫する。</p>
<p>○学んだ知識や技能を生かした表現活動 毎回の授業の導入で前回の学習内容の振り返りを行ったことで、学んだ知識や技能を生かして思考したり、表現する活動を充実させることができた。</p> <p>●知識・技能の習得 2年生は1学期に小テストを2回実施したが、何度も同じ問題を間違えている生徒が一定数おり、知識の定着に課題がある。また、表現するために必要な技能の習得に時間がかかっており、個別的な支援も必要である。</p> <p>□粘り強く学習に取り組む力の育成 学校評価アンケートでは「積極的に授業に取り組んでいる」と答えた生徒が93%であり、生徒の意欲は高い。試行錯誤を必要とする単元でも、協働的に学びながら前向きに取り組んでいる。</p> <p>■学習を調整する力の向上 自らの学習状況を客観的に把握する力が不十分であり、学習のねらいに向かって自らの学習を見通しをもって計画的に進める力に課題がある。</p>	<p>知識・技能の確実な定着 学習を調整する力の向上</p>	<p>・毎回の授業における振り返り学習を継続して知識の定着を促すとともに、小テスト等でGoogleフォームのフィードバック機能を活用し、間違いやすい問題を繰り返し学習できる支援方法を考える。</p> <p>・見通しをもつことが苦手な生徒に対しては、授業計画を明確に示して「いつまでに」「どの程度」制作が進んでいけばいいのか声をするとともに、タブレットを活用して学習の記録を作成し、毎回の授業の中で学習の過程を把握する力を向上させる。</p> <p>・8時間程度の制作活動の中で、自分の制作を振り返るための話し合いを3回以上実施し、今後の制作の方向性や工夫の在り方について考える時間を充実させる。</p>
<p>○ICTを効果的に用いた学習活動の定着 班で調べたことをスライドにまとめて発表する活動や、学習のねらいに沿ってインターネットで情報を収集する力に向上が見られ、表現活動の幅を広げることができた。</p> <p>●知識・技能の定着 1学期期末考査の平均点が54点と60点を下回っており、生徒の家庭学習の時間や学習方法について課題が見られた。絵画を描いた作者の名前や授業で学習した表現技法など基本的な知識・技能を問う問題の正答率が低く、繰り返し学習する力の向上が必要である。</p> <p>□豊かに発想し、表現する力の向上 生徒の振り返りシートの記述からは、話し合い活動や調べ学習で学んだ知識をもとに新たな発想を生み出す題材を系統的に指導したことで、創造的な作品を生み出す力に向上が見られた。</p> <p>■深い学びに向かう思考力の育成 教科書や資料集、タブレットで調べた内容の意味を理解して考える力には課題があり、学んだことから考えを深める学習に工夫が必要である。</p>	<p>知識・技能の確実な定着 考えを深める学習活動の充実</p>	<p>・ICTを活用して知識・技能を定着させる 知識については、Googleフォームの小テストやスライドのフラッシュカード機能を活用して学習方法を工夫し、理解の程度や定着状況のチェックができるようにする。技能については、動画コンテンツを積極的に活用し、生徒がいつでもどこでも学習できる環境を整える。</p> <p>・3年間で学んだことを振り返る時間を十分に確保し、既知の知識や技能を活用して取り組むことができる題材を計画的に設定する。また、ルーブリック評価を生徒に示し、学びを深める視点の共有化を図る。</p>

教科名(保健体育) ○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>○生徒の授業評価では、授業のねらいを理解したうえで、積極的に授業に取り組んでいる生徒が90%を超えていることから、生徒が授業のねらいを意識しながら積極的に授業に参加できていると考えられる。</p> <p>●授業のねらいに対して、自分の課題を設定することが難しい生徒、また技能的に課題の解決が難しい生徒への支援が課題である。</p> <p>□学習カードにおける、自身の課題設定と解決に向けた手立ての記述の仕方を、例示したりA評価の生徒の記述を提示することで、記述方法、言語化をしやすくすることができた。</p> <p>■主体的に授業に取り組む態度に対する生徒の具体的な活動の手段を、より明確化することと、評価の方法が課題である。</p>	<p>・それぞれの生徒が、自身の能力に応じた、課題設定と課題解決の手立てを考え、毎授業に取り組めるようにする。</p> <p>・ルーブリックを活用することによる習得すべき課題と、学習内容の明確化。</p> <p>・主体的な取り組みに対する授業内での評価の明確化。</p> <p>・途中の振り返りの方法の工夫。</p>	<p>・授業のねらいに対する課題設定の具体化</p> <p>★目標設定を数値化して示す。</p> <p>★解決の手立ての方法を、いくつか具体例で示す。</p> <p>・主体的な取り組みの方法の具体化</p> <p>★A、B、Cの基準をより具体的に示す。</p> <p>★中間での振り返りで、自己の達成度について意識させる。</p>
2年	<p>○生徒の授業評価では、授業のねらいをはっきりと示すことが90%近い数値であることから、生徒が授業のねらいを意識して学習に取り組んでいる。また、授業内容をよく理解している項目が95%以上の数値を示していることから、授業のねらいと合わせて生徒の理解度が高まっている。</p> <p>□ペア学習やグループ学習を通じて、他の人の意見を聞いたり、アドバイスをし合ったりすることが出来ている。</p> <p>■振り返りシートや記述の課題を見ると、ルーブリックで示した内容に沿った方法で記述することができていない生徒が見受けられるので、取り組む内容を定着させることに課題がある。</p> <p>■主体的に取り組む態度を授業内で評価するにあたって、観察での評価の方法を十分に生徒が理解しておらず、一部の生徒のみしか浸透していなかったのが課題である。</p>	<p>・授業の目標と目標に沿った評価の実施方法</p> <p>・ルーブリックを活用することによる習得すべき内容の明確化</p> <p>・振り返り場面の設定、言語活動の充実</p>	<p>・授業の目標を毎時間必ず示し、目標の達成度や目標に対しての取り組み状況を観察で見取っていく。また、B評価の基準に達していない生徒については個別に声掛けを行うなど必要な手立てを考え、行っていくようにする。</p> <p>・ルーブリックにより、目標を明確化することで生徒がより意欲的に取り組む環境づくりをしていく。またルーブリックは授業中多くの場面で生徒が視覚的に認識できるような工夫をする。</p> <p>・単元の振り返りを行うことで、自己の学習状況を確認するとともに授業の目標に対してどの程度取り組んでいたかを自己理解させる。また、振り返りの場面ではICT機器を活用し、知識がどの程度身に付いているかの単元のまとめを行えるようにする。</p> <p>・言語活動については振り返りシートを毎回の授業で活用し、自分の動きや仲間の意見を言葉で表現するための機会を多く設けていきたい。</p>
3年	<p>○生徒の授業評価では、授業のねらいをはっきりと示すことが90%近い数値であることから、生徒が授業のねらいを意識して学習に取り組んでいる。また、授業内容をよく理解している項目が95%以上の数値を示していることから、授業のねらいと合わせて生徒の理解度が高まっている。</p> <p>□男女教習のペア学習やグループ学習を通じて、他の人の意見を聞いたり、アドバイスをし合ったりすることが出来ている。また、他者を理解し受け入れる態度が育ってきている。</p> <p>■振り返りシートや記述の課題を見ると、ルーブリックで示した内容に沿った方法で記述することができていない生徒が見受けられるので、取り組む内容を定着させることに課題がある。</p> <p>■主体的に取り組む態度を授業内で評価するにあたって、観察での評価の方法を十分に伝えきれておらず、生徒も理解していない状態である。</p>	<p>・授業の目標と目標に沿った評価の実施方法</p> <p>・ルーブリックを活用することによる習得すべき内容の明確化</p> <p>・振り返り場面の設定、言語活動の充実</p>	<p>・授業の目標を毎時間必ず示し、目標の達成度や目標に対しての取り組み状況を観察で見取っていく。また、B評価の基準に達していない生徒については個別に声掛けを行うなど必要な手立てを考え、行っていくようにする。</p> <p>・ルーブリックにより、目標を明確化することで生徒がより意欲的に取り組む環境づくりをしていく。またルーブリックは授業中多くの場面で生徒が視覚的に認識できるような工夫をする。</p> <p>・単元の振り返りを行うことで、自己の学習状況を確認するとともに授業の目標に対してどの程度取り組んでいたかを自己理解させる。また、振り返りの場面ではICT機器を活用し、知識がどの程度身に付いているかの単元のまとめを行えるようにする。</p> <p>・振り返りシートを毎回の授業で活用し、自分の動きや仲間の意見を言葉で表現するための機会を多く設け、思考力や表現力の向上を図る。</p>

教科名(技術)

○成果 ●課題

「主体的に学びに向かう力」や「思考力」の育成に関する指導の成果⇒□ 課題⇒■

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>○授業評価アンケートで、「授業の始めの部分でその授業のねらいをはっきりさせていますか」の質問に対して、「させている・どちらかというときさせている」という回答が合計で97.5%であった。ワークシートにねらいを記入し、伝えることで本時のねらいを生徒にはっきりと伝えるようにさせることができたと考ええる。</p> <p>●授業評価アンケートで、「授業のおわりの部分で、その時間に行った授業のまとめや確認をしていますか」の質問に対して、「させている・どちらかというときさせている」という回答が合計で88.4%であった。一学年では、作業の時間が多くなり片付けなどにも時間を割いているため、ワークシートの振り返りなどがあまりできなかったことが考えられる。</p> <p>□身近な題材や、生活に関わる事象などをテーマとして扱うことで、生徒同士がコミュニケーションを取りながら、学習内容について関わる事ができた。</p> <p>■技術科の授業で、いかに主体的に学びに向かう態度を養い、思考力を育成する活動が設定できるか。</p>	<p>・ねらい達成に向けた導入の工夫。</p> <p>・ワークシートの工夫</p> <p>・タブレットの活用の充実 授業展開の工夫 ワークシートの工夫</p>	<p>・ワークシートを工夫し、授業のはじめに確認した「その時間のねらい」を利用して振り返り、まとめを行うようにする。また、次の活動の見通しが持てるようにする。</p> <p>・タブレットを活用することで、視覚的に基礎・基本の理解を促し、作業を行う前の「作品の作成計画」に意欲的に取り組むことができるようにする。基礎・基本の理解(情報収集)→作品のテーマ設定→工夫・まとめ→班内での発表・意見交換→再工夫→作業といった授業展開による学習形態を実施する。</p> <p>・連続した題材を扱う上で、その一時間のまとめを授業の終わりに伝える。また、行っている作業が何時間で行うべきものか伝え、生徒自身がねらいに対してどの程度進んでいるか客観的に把握できるようにし、作業の効率化などの工夫や思考した過程を表現できるワークシートを作成する。</p>
2年	<p>○ねらいを毎時間示すことで、授業評価アンケートでは「授業の始めの部分でその授業のねらいをはっきりさせていますか」の質問に対して、「させている・どちらかというときさせている」という回答が合計で95.9%得られた。作業の時間を確保するため、説明を簡潔にすることや、ワークシートに載せることで学習が遅れてしまう生徒が少なくなるようにできたと考ええる。</p> <p>□授業評価アンケートでの「あなたは、積極的に授業に取り組んでいますか」の質問に対し、肯定的な回答が合計94.8%となった。自己の振り返りを行うワークシートを作り、言語化することを多く取り入れ、他者と意見交換できたことで主体的に取り組めたと考ええる。</p> <p>■定期考査の結果や授業中の取り組みの様子から、言語活動により、まとめて伝える力は高いが、得られた知識や思考を実生活につなげられていない。</p>	<p>・時間での区切りや課題の進み具合を明確にし、どの場面を行っているかわかりやすく提示する。</p> <p>・声かけの方法や生徒同士がフォローし合える工夫を行う。</p> <p>・言語活動で得られた知識をどのように活用するか、ワークシート等の工夫をおこなう。</p> <p>・授業内容の工夫</p>	<p>・ワークシートなどで、目標を示す。また、その目標にどのくらい近づけているか確認できるような工夫をおこなう。</p> <p>・作業では、時間を区切り取り組む。そして班活動など、小集団で進み具合を確認しながら取り組むことやサポートする時間を取るなど、学級全体で進められるようにする。</p> <p>・振り返りは記入する時間をとり、個人だけでなく周囲の人とコミュニケーションがとれるような授業展開をとる。</p> <p>・単元のまとめの時に、その学習で得られた技術や現象が、実生活や将来をどのように変革するか考える場面を作り、授業と実生活のつながりを考えさせるとともに、思考力の育成を図る。</p>
3年	<p>○授業評価アンケートで、「授業の始めの部分でその授業のねらいをはっきりさせていますか」の質問に対して、肯定的な回答が合計で97.8%であった。導入の部分で、黒板への記入とワークシートに分かりやすく示したことで、学習や実習の時間を保ちつつ、明確にその時間の「ねらい」を定着させることができたと考ええる。</p> <p>●「授業の内容がよくわかりますか」の質問に対し、肯定的な意見が92.9%であった。しかし「よくわかる」の割合が56.8%と「授業の始めの部分でその授業のねらいをはっきりさせていますか」における「よくわかる」が75.3%であり、比較すると数値が低い。ねらいを理解しても授業内容につながらなかった生徒がいたと考えられる。</p> <p>□一人一台タブレットを扱うことができるので、作業をしながら視覚的に隣の人などに教えるなど、コミュニケーションを取る時間がつくれた。また、共同作業などでどのようにするとうまくいくか工夫を伝え合う場面をつくる事ができた。これより、短い時間でも思考力をつける学習に取り組むことができたと考ええる。</p> <p>■定期考査の結果を調べると、プログラミングなど学習を通して学んだことが、日常生活や将来どのように活用されるか考えることができる生徒が少ないことが挙げられる。</p>	<p>・前回の振り返りの課題を5分程度とり、どのようなことを行ったか思い出す時間を取る。</p> <p>・タブレットを利用して視覚化したり、ワークシートを見やすく更に工夫する。</p> <p>・授業内容の工夫</p>	<p>・作業を通してのコミュニケーションは、双方向性のあるコンテンツのプログラミングでも活用できるので、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>・ICTを利用する活動と、ワークシートを記入する活動のバランスをとる。</p> <p>・その時間に学習したことについてまとめるときは、Googleドキュメントを用いてポイントとなる項目を示しておき、まとめやすく工夫して、時間の効率化と「ねらい」の定着を図る。</p> <p>・作業では教科書に載っていない部分があるので、手順を示したワークシートを作成する。</p> <p>・プログラミングなど新しい学習でも、日常生活に関わることを考えさせる場面を設定する。また、この作業は、人間の思考方法にとっても参考になることを理解できるようにして、学習の意欲を高める。</p>

	授業分析(現状の課題)	授業改善の重点	具体的な改善のための方策・ 学びに向かう力等を育むための方策
1年	<p>●授業評価アンケート「授業の内容がよく分かりますか」という項目で93.3%の生徒が理解を示し、6.7%の生徒が理解できていない事を感じている。1学年の単元は栄養素の計算も含まれ難しい内容である。困り感を感じている生徒への補習などを考える。</p> <p>○授業評価アンケート「積極的に授業に取り組んでいますか」という項目で95.7%の生徒が積極的に取り組んでいるとの回答であった。小学校での既習内容を深める授業展開を行うことで興味関心を高められたように思う。4.3%の積極的に取り組んでいないと回答した生徒も前向きに取り組める導入・授業展開を考える。</p> <p>□生徒自らの生活に関係する内容から考え検討させる事によって、自分の事として考え、理解しようという意識が高まっているように思う。</p> <p>■授業中には理解を示しているも、小テストで簡単な問題につまずいている生徒もいる。</p>	<p>・知識定着のための教材研究と授業展開</p> <p>・タブレットから得た情報を理解して考える力の向上に努める</p>	<p>・知識を活用した探求学習にしていくために、既習の学習内容を分かりやすくスライドでまとめておく。それを理解した上で、タブレットを用いて情報を得て知識を深め自分の生活に役立てる授業展開にしていく。</p> <p>・1学期は小グループでの学習活動の時間があまりとれなかったので機会を増やす。グループでの教え合いを通じて知識の定着を図る。</p> <p>・知識の定着に課題があり、朝や放課後等、授業以外での支援の機会を設け、自主性も伸長も図る。</p>
2年	<p>●授業評価アンケートの授業理解度が昨年の98%から92.3%と下がってしまった。今年度は実習時間を確保する為に、その時間の学習内容・到達目標を記入する【振り返りシート】の扱いを中止した事と、中学2年生としては高度な実習内容が影響していると思われる。</p> <p>○授業評価アンケートの「積極的に授業に取り組んでいますか」という項目では95.8%の生徒が前向きに取り組んでいるとの回答を得られた。4.2%の生徒が興味関心を高め授業に取り組める教材を工夫していく。</p> <p>□その日の課題を明確にし終わらない生徒は、次の授業までに補習で補うようにしている。放課後の活動に参加できる生徒は次時の授業にスムーズに取り組んでいる。</p> <p>■その日の課題が終わらない生徒で、放課後に補習する事が出来ない生徒はどうしても課題に追いつけず、次時の課題や目標に向かう気持ちが損なわれてしまう。</p>	<p>・学習目標を知らせ振り返りを充実させる。</p> <p>・授業内容、展開の改善</p>	<p>・毎時間の目標や振り返りの時間確保は難しいと思われるので、あらかじめ単元の目標や毎時間の目標を示し、区切りの良い所で振り返りを行っていく。また小テストを有効活用する。</p> <p>・作品の製作に関しては、1人1人の生徒がデザインしたものに沿って工程が異なる。生徒が授業時間を有意義に活動出来るよう、個別の製作工程をタブレット上に動画または画像で示し、個人個人が、その工程に応じて鑑賞することにより理解し製作するようにしていく。理解できない生徒に重点的に指導できる機会を設ける。</p>
3年	<p>●授業評価アンケート「授業の内容がよく分かりますか」という項目で95.3%の生徒が理解を示し、4.3%の生徒が理解できていない事を感じている。3学年では環境・消費生活など今後の生活をどのように構築するかを自分の言葉でまとめる学習を中心に行っている。言語で表現する事に困難を感じる生徒もいるようである。</p> <p>○授業評価アンケート「積極的に授業に取り組んでいますか」という項目で95.6%の生徒が積極的に取り組んでいるとの回答であった。課題解決学習を中心に行っているため興味をもって取り組んでいる生徒が多いと感じている。</p> <p>□ディベートを授業に取り入れる事で興味をもち、次の課題では自分が参加するという目標をもち取り組む姿が増えたように思う。</p> <p>■提示した資料やタブレットから得た情報などの内容を正しく理解し考える事が難しい生徒も多い。</p>	<p>・情報を正しく取り入れ考える力の構築</p> <p>・生活に役立つ課題の設定</p>	<p>・提示する資料の説明やICTから得た情報から、どのように考え判断したかを、まとめの前に、フィードバック出来るようタブレットを活用していく。</p> <p>・授業ごとに到達目標を示すルーブリックを生徒に提示し指導と評価の一体化を図る。学んだ内容を深めるための手立てを示し、実生活の構築に役立たせる。</p> <p>・友人の発表や複数の課題解決学習を通じて、考えを深める・検討する力を育てていく。</p>